報道関係各位

2013年8月16日
近鉄不動産株式会社

大阪ガス㈱主催「NEXT21設計パートナーコンペティション」にて

# 近鉄不動産の「プラスワンの家」が最優秀作品賞を受賞

近鉄不動産株式会社（本社:大阪市天王寺区、取締役社長:澤田悦郎）は、大阪ガス株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:尾崎裕）主催の「大阪ガス実験集合住宅・NEXT21」の2住戸を対象とした『NEXT21設計パートナーコンペティション』におきまして、株式会社アトリエ オズミィ(本社:大阪市天王寺区、代表取締役:折口英明）の協力を得て応募した弊社作品「プラスワンの家」が501住戸部門の最優秀作品賞を受賞しましたので、お知らせ致します。

## 1．Next21について

Next21とは、大阪ガス株式会社が近未来の都市型集合住宅のあり方について、環境・エネルギー・暮らしの面から実証・提案することを目的に、1993年に建設した実験型集合住宅です。同社の社員とその家族が実際に居住し、時代に一歩先んじた居住環境・設備を体験する実験を通じ、検証する住宅です。

【建物概要】
所　在　地：大阪市天王寺区清水谷町6-16
用途地域：第2種中高層住居専用地域／準防火地域
構　　造：地下1階～地上2階　鉄骨鉄筋コンクリート造
　　地上3階～地上6階　プレキャストコンクリート
　　＋鉄筋コンクリート複合構法
主要用途：共同住宅（総戸数18戸）
　　1994年から居住実験を実施
建築面積：896㎡
延床面積：4,577㎡

NEXT21　外観写真

## 2．『Next21　設計パートナーコンペティション』概要

主　　催：大阪ガス株式会社
対象住戸：Next21建物内の404住戸（81.51㎡）、501住戸（91.98㎡）の2住戸
テ ー マ：誰かと住む、それは家族かもしれないが、家族でないかもしれません。例えば、誰かと何か
（501住戸）　（空間、時間、行為…）をシェアしたり、住戸の一部を他者に開放したり…。
　　そういった提案によって生まれる次の時代の住まいの形や可能性を求めます。
応募資格：関西で分譲マンション（ファミリータイプ）供給実績がある企業
　　※NEXT21改修住戸のコンペで、マンションデベロッパーを対象としたのは今回が初めてです。
応募内容：404住戸、501住戸、両住戸設計の提案を1エントリーにつき1案ずつ
表 彰 等：【最優秀作品賞】各住戸１点、本プロジェクトのパートナーとして企画設計に参画
結果発表：平成25年8月6日（大阪ガス㈱ホームページ：http://www.next21-partner.jp/winning/）

## 3．最優秀作品住戸　『プラスワンの家』のコンセプト

**―1つの空間をシェアする1.5世帯の新しいマンションの暮らし―**

**時の流れと共に変化する『家族の在り方』**

**・・・縁ある人と集い、分け合い、住み続けられる家**

単身世帯、二人世帯の増加・・・バラバラと細分化されていく家族。その中で、2020年には、ワーキングシングルの増加を背景に世帯構成が変化しています。60代を中心に「1.5世帯」(夫婦＋単身の子)の増加が加速しています。しかしながら、集合住宅の基本モデルは限定された世帯(1世帯)に向けて作られている状況が続いています。そこで、50～60代の夫婦を中心軸に、「1.5世帯」に向けた新しい集合住宅のカタチを提案致します。

子、親そして他者へ緩やかにつながる、あたらしい暮らしのカタチ

共に暮らす「誰か」(プラスワン)が変化しても、お互いの生活を尊重し、住み続けられる。そんな、時の流れ、家族の変化に沿って住み続けられる、変わらない家をコンセプトと致しました。

※詳細は、「7.『プラスワンの家』エントリーシート」記載のとおりです。

## 4．審査員コメント　馬場 正尊氏[建築家／Open A代表／東北芸術工科大学准教授]

もうすでに商品化されていてもいいようなプランだった。

でもそれが分譲マンションとしては存在していない。社会の状況に素直な案だと思う。

離れに住む住人のキャラクター／プロファイルは多種多様に想像ができた。最初はあまり話題にならなかった案だが、どんな暮らし方があるのかを審査員で話す間にクローズアップされた。さまざまな可能性が語れるということは、きっとニーズが大きいのだろう。

離れに住むのは、成人した子供、歳をとって残された両親のどちらか、ドライに賃貸として貸し出すことも可能。0.5世帯＝単身がパラサイトし、それは関係性の脱着が容易、という空間にはこれからの社会でニーズがありそうだ。それがいいかどうかは別として。

（NEXT21設計コンペティションHPより抜粋）

## 5．株式会社アトリエ オズミィについて

所　在　地：大阪市天王寺区上本町5-2-11上六興産ビル

創　　立：2008年11月11日

代表取締役：折口英明

≪折口英明プロフィール≫

堺市立工業高校 建築科 卒業。

2003年、日本初となる東京都港区認証保育園「ノンシックハウス保育園」設計監理業務チーフ。

2013年　第７回キッズデザイン賞「子ども視点の安全安心デザイン　子供部門」および「子供の未来デザイン　感性・創造性部門」受賞

## 6．今後の予定

2013年10月中旬まで　基本設計

2013年11月下旬まで　実施設計

2014年1月初旬から　着工

2014年3月下旬　竣工（予定）

# プラスワンの家

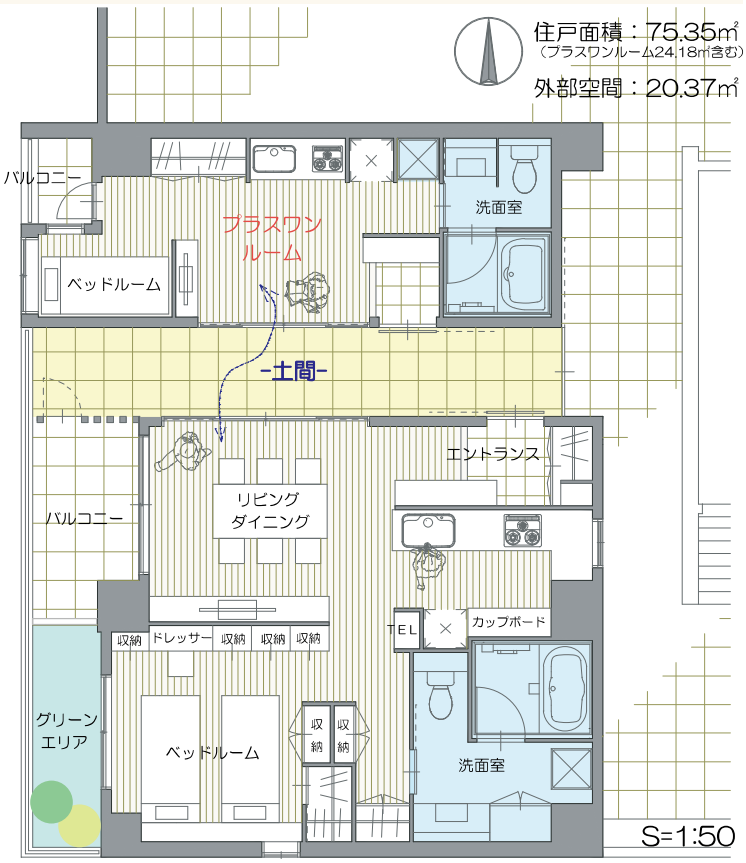
## ―１つの空間をシェアする１.５世帯の新しいマンション暮らし―

時の流れと共に変化する『家族の在り方』
・・・縁ある人と集い、分け合い、住み続けられる家

単身世帯、二人世帯の増加・・・バラバラと細分化されていく家族。
その中で、2020年には、ワーキングシングルの増加を背景に世帯構成が変化。
６０代を中心に「1.5世帯」（夫婦＋単身の子）が加速している。
だが、集合住宅の基本モデルは限定された世帯（１世帯）に向けて作られている状況が続いている。
そこで、５０～６０代の夫婦を中心軸に、「1.5世帯」に向けた新しい集合住宅のカタチを提案する。
子、親そして他者へ緩やかにつながる、あたらしい暮らしのカタチ
共に暮らす「誰か」（＝プラスワン）が変化しても、お互いの生活を尊重し、住み続けられる。
そんな、時の流れ・家族の変化に沿って住み続けられる、変わらない家をコンセプトとした。

●変わる人、変わらない家
―ｓｈａｒｅ＝分ける・・・室空間を―
適度な距離と絆を育む土間空間
『住み手によって距離感を変えることが出来る』土間で室空間をシェア
・時が移りシェアする人が変わっても、手を加えることなく柔軟
にそれぞれの暮らしに対応。住み続けられる家。

●住まいと住まいをつなぐ
「土間空間」
―ｓｈａｒｅ＝共有する
・・・土間～路地空間を―
・町屋をイメージしたガラリ戸で開放廊下と繋がる。住人は、土間空間に入ってから各々の居住スペースへ。
・土間は緩衝スペースとして、共有スペースとして働く。家族をつなぐリビングに、また、隣人や友人が集う路地に変身する。
・プライベートスペースを土間でつなぎ、土間を通じて「隣り合う、向かい合うことも出来る」、「光や音や気配を感じながら」、共に暮らす。



夫婦５５才＋「娘２５才」

・子供が社会人になり、個人の生活スタイルを持ち始める。〝親〟と〝子〟の生活にズレが広がっていく。子供は「プラスワンルーム」で独立する。その変化に向きあい、〝適度な距離〟を持つことで、お互いの生活を尊重しながらも緩やかにつながる暮らしかたが始まる。
・休日には、一体に繋げた広々土間リビングで一緒にスイカやビール。ゆったり流れる時間を親子で共有。

「リビングの延長　共有する時間と空間」

夫婦６０才＋「おばあちゃん８０才」

・子供が独立し、一人暮らしの親を呼び寄せる。おばあちゃんは、「プラスワンルーム」で独立した生活空間を確保できる。お互いの生活習慣や生活リズムが異なっても、大丈夫。お互いの雰囲気を感じながら、気兼ねなく、安心して生活出来る。
・おばあちゃんは友達を呼んで、土間スペースでお茶会や手芸の会。

「路地空間でおばあちゃん友達とも交流」

夫婦７０才＋「賃貸：女性３５才、小型犬を飼っている」

・空いたプラスワンルームを賃貸に出す。
〝ひとり暮らしでペットを飼う不安も、ここなら解消出来る〟と、小型犬を飼っている女性がすぐに入居。犬好き同士で交流、旅行の時には大家さんがめんどうを見てくれる。
・大きな土間で犬ものびのび、ペットをはさんで、会話もはずむ。

「犬と土間でつながる風景」

本資料は、大阪建設記者クラブ、近畿電鉄記者クラブに配布しております。


**【本件に関するお問合せ先】**

近鉄不動産株式会社　財務企画部　　ＴＥＬ：０６－６７７６－３０５７
近鉄不動産株式会社　品質企画部　　ＴＥＬ：０６－６７７６－３００８